

286本のサクラを調査! クビアカツヤカミヅリから地域のサクラを救うために

調べたきかけ

東アジア原産の外来雑種であるクビアカツヤカミ
カリがサクラの木を枯らしているとわかりました。奈良
県では2019年に初めて被害確認され、その後徐
々に被害が広がり、多くの住民でいる地域でも
見つかりました。ぼくは地域のサクラを守りたい
と思います。なるべくいいサクラが被害にあってい
るのか、また、どのような木が被害にあいやす
いのかを調べることにしました。

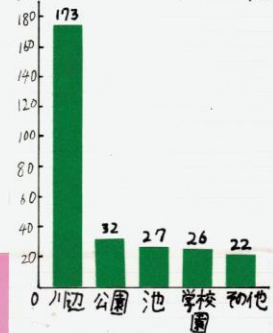
予想

・フビサカツカミキリの被害木に見られる特徴の一つであるフラスが見つかるサクラは10%くらいと予想した。
・虫は木の内部を食べて成長するため、多い木より太い木の方がフラスが見つかる可能性が高いと予想した。
・成虫がサクラに卵を産むため、サクラがたくさん植えられている場所ほどフラスが見つかる割合が高いと予想した。

方法

調査日 2026年 7月 11日、12日、15日、16日、17日、21日、22日
はっさい見学日 2026年 7月 24日
檀原市立耳成小学校区内の公園川辺、池、学校などにあるサワ286本を言調査した。木質、木の特性などであるフラス、心液の吹き出し、成虫、月見出し、木の太さ、幹のひび、葉の状態についてそれぞれ書いて記録した。木の太さは、自分の体比幹より太いものをなし、それより木肌ものを系なりとした。今の木は、自分の親指より太いものをなし、親指より太い木の感じなり、ひびがないものをなしとした。葉の状態は、木太きごと葉が全くついていふ、いふなりとあるものをなし、すべての太い木に葉がついているものを「あり」とした。
今午校校がせんで定めていて観察できなかった6本は集計がゆり余り、280本を対象に分けた。また、はっさい現場を見学し、木の内部の様子も観察した。

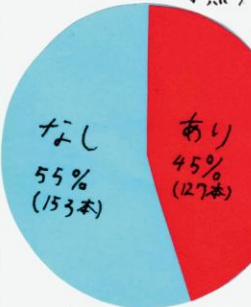
(本) 調査したサクラの土場所別本数



言調査したサクラはすべて
ソメイヨシノであった。

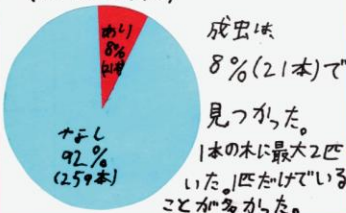
結果

＜フラスの有無＞



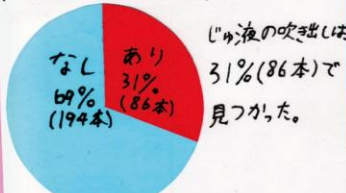
木の幹から出てきたフラス
フラスは、
45% (127本) で
見つかった。
も調査したサクラのほぼ
半数木が1本フラスが
見つかった。

〈成虫の有無〉



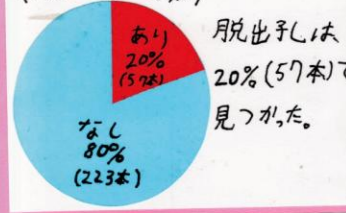
A photograph of a longhorn beetle (Cerambycidae) on a piece of wood. The beetle has a dark body with a prominent red patch on its thorax and very long, segmented antennae. It is positioned on a piece of light-colored wood with visible grain and some bark.

《胆汁液の吹き出しの有無》



幹が出ているに液

＜脱出予しの有無＞



成虫が糸を脱出

ば、さい現場で分かったこと

フラスなし、液の吹き出しなし、成虫なし、脱
出子なし、葉ありの木



木の内部には約60cmの
食害穴があり、外から見
ない場所までカミキリ
が食べ進んでいた。

以前にばっさいされていたのをさらに短くした木



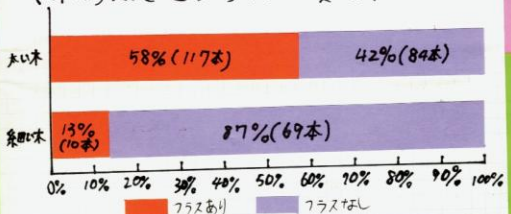
木の内部は大きく空洞
になっていて、被害が進
むと木の内部が大きく
失われることが分かった。

葉がなく、枯れたつぼ"みたけ"になっていた木



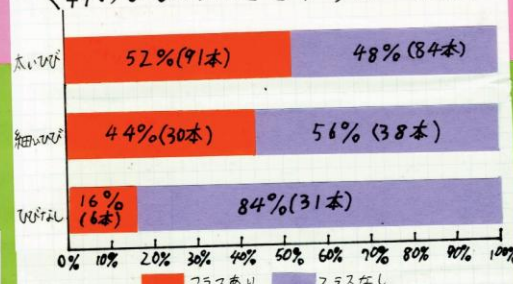
木の内部には深さ10~15cmの空洞がいくつかあり、クビアカツヤカミキリの脱皮殻がみつかった。

〈木の太さとフラスの関係〉



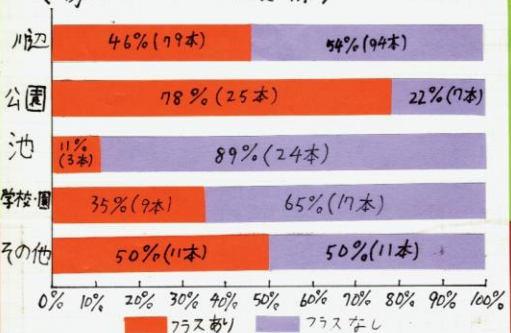
太い木では58%にフラスが見つかったのにに対し、細い木では13%
だった。太い木は細い木の約4.6倍の割合でフラスが見つかった。

＜幹のひびの太さとフラスの関係＞



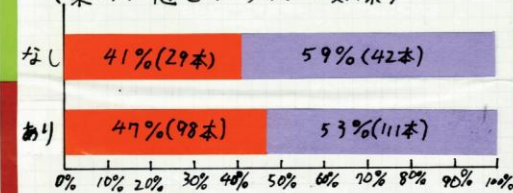
草今のひびが太い木では52%、ひびが糸田の木では44%、ひびがない木では16%にフラスが見つがた。ひびが太い木は、ひびがない木の糸約3.3倍、ひびが糸田の木では糸約1.21倍フラスが見つがた。

〈場所とフラスの関係〉



フラスが見つかった割合は、公園46%、公園78%、池11%、学校・園35%、その他50%だった。川辺では調査したサクソの本数が最も多くフラスが見つかった本数も79本と最も多く、また、しかし、フラスが見つかった割合では公園が最も高くサクソの本数が多い場所はほぼ教室の割合が高いわけではなかった。

＜葉の状態とフラスの関係＞



葉の多い木と少ない木でフラスの割合を調べたが、大きな差はなかった。そのため、葉が元気にしているから被害をうけていないとはいえないことが分かった。

まとめ

まとめ 地域域のサクラを2865本調べ、280本を分析したことで、地域域のサクラの被害の状況を知ることでできた。フラスは45%の本で見つかり、予想よりも多くの利率被害の可能性があることが分かった。また、本が大きいほど、幹の太いほど、フラスが見つかる割合が高いことも分かった。一方、葉が元気な本でもフラスが見つかりばさいておける内部の大きな被害が分かった本もあった。今回の調査を通して地域域のサクラを求めたためには、葉が元気な本でも被害がある場合があるため、葉は元気に生い茂るフラスが出ていなくても被害を認めることが大切だと考えた。成虫を見つけたら防除することも重要な役割があるサインであるフラスなどの小さな変化を早く見つけることが被害の早期発見につながると考えた。この結果を地域域の見守りや早期発見に生かし、被害を早く見つけることで本でも多くのサクラをビオカサクラにキリが保たれたい。

考察 予想ではフスが見つかる木は10%ぐらいと考えていた。しかし、実際には45%の木がフスが見つかり、予想を大きく上回った。また、太い木ほどフスが見つかる割合が高く、予想通りの結果になった。

一友サウの本葉数が多い、扇戸ほど被害の割合が高いと限らなかった。刈込は調査本葉もフスが見つかる本葉数最も多かったが、割合は公園の方が高かった。このことから、サウの本葉数だけでは被害の多さを説明できないと考えた。

また、葉の太さとフスには大きな差がなく、葉が元気でもフスが見つかった。さらにばさいでは、外が被害が分かる木、内部にも系統60%の食害穴が見つかった。このことから、葉が元気に見える木でも、内部で被害が進んでいる可能性があると考えた。葉の太さなどだけで正確に判断することができず、フスなどの小さな変化を早く見つけることが大切だと考えた。